

事務事業	136	環境に配慮した道づくり					
章	5	身近な環境に配慮した、地球にやさしいまち					
大項目	02	快適環境の保全と創出					
施策	02	環境保全型まちづくり					
事業内容							
目的	環境に配慮した舗装を実施することでヒートアイランド抑制効果を高めるとともに、道路施設において、資源の有効活用を進めます。						
対象・手段	対象：区道 手段： 遮熱透水性舗装（ ）の実施 防護柵に間伐材を活用 遮熱透水性舗装とは、直射日光のうち、路面温度を上昇させる原因である赤外線を反射する塗料を路面に塗布した舗装をいいます。						
成果（事業が意図する成果）							
温度低減効果がある舗装の実施や既存資源の有効利用を図ることで、身近なところから、環境に配慮したまちづくりを進めます。							
事業成果指標							
指標名	定義	目標水準					
遮熱透水性舗装の施工面積	遮熱透水性舗装の面積	(毎) 年度に (1,300㎡) の水準達成					
木製防護柵の施工延長	木製防護柵の延長	(毎) 年度に (100m) の水準達成					
		() 年度に () の水準達成					
成果の達成状況							
	単 位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考	
事業 成果 指標	目標値 1	㎡	0.00	0.00	1,300.00	1,300.00	
	実績 1	㎡	0.00	0.00	1,229.00	1,370.00	
	= /	%	0.00	0.00	94.54	105.38	
	目標値 2	m	0.00	0.00	100.00	100.00	
	実績 2	m	0.00	0.00	110.70	161.40	
	= /	%	0.00	0.00	110.70	161.40	
	目標値 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成17年度	遮熱透水性舗装 1,229 ㎡ 木製防護柵 110.7 m						
平成18年度	遮熱透水性舗装 1,370 ㎡ 木製防護柵 161.4 m						

部名称		環境土木部		課名称		土木課	
		単 位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	0	0	37,434	32,448	
	人件費	千円	0	0	0	4,140	
	事務費	千円	0	0	0	0	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	0	0	37,434	36,588	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	0	0	37,434	36,588	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	0	0	37,434	36,588	
	特定財源		0	0	0	0	
	一般財源投入率 /	%	0.00	0.00	100.00	100.00	
職員	常勤職員	人	0.00	0.00	0.00	0.50	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
事業に関する検討課題							
<p>遮熱透水性舗装については、ヒートアイランド対策に効果がある環境配慮型舗装として、東京都土木技術研究所等の協力の下、導入を行い路面温度低減効果を検証しました。今後はより有効に機能する場所の選定基準等についても検証して行くことが必要です。</p> <p>木製防護柵については、経年変化による劣化状況を経過観察することが必要です。</p>							
評価基準に基づく評価と理由 「3.2.1」の3段階評価です。	達成度	3	予定施工数量を達成しました。				
	効率性	3	事業対象である区道は区民の生活道路が主であるため、事業実施による成果を区民が享受しやすいことから、事業の効率性は高いと考えます。				
	実施の成果	2	夏季の舗装温度低減による歩行者等への身体的な負担の軽減等、少しずつ成果が出てきています。また木製防護柵は木の温もりが感じられることから、地域住民から好評を得ています。				
	行政の関与	3	環境に配慮した施設づくりは、幅広い主体が取り組む問題です。その中でも、広く公共の用に供する区道は、区内全域に対して面積の割合が比較的多いことから、率先して取り組むことが必要です。				
	妥当性	3	道路における環境に配慮した取り組みとして、道路の大部分を構成する路面で対策を行う本手法は、非常に有効であると考えます。				
	施策寄与度	2	遮熱性舗装は、路面温度の上昇及び路面の蓄熱をそれぞれ抑制し、ヒートアイランド現象の緩和に寄与するものと考えます。また間伐材を防護柵として使用することにより、資源の有効利用に貢献しています。				
総合評価	<p>環境宣言都市にふさわしい新宿区を築いていくため、公共施設管理者は率先して環境施策に取り組まなければなりません。道路の分野においても、新たな工法や材料を取り入れ積極的に環境に配慮した事業を展開することが必要です。当該事業は道路における環境対策として有効であり、また地域に身近な区道における施策であることから区民が事業による成果を享受しやすく、事業効果が高い施策であると考えます。</p> <p>なお当該事業は新しい取り組みであることから、今後とも耐久性の検証や性能評価方法等の検討を続けていきます。</p>						B 過年度評価
							17年度 B 16年度 15年度 14年度 方向性
改革方針	<p>国や東京都とも連携し、遮熱性舗装の耐久性を検証するとともに性能評価方法や維持管理手法について検討を続けながら、より有効に機能する場所についても調査していきます。また、木製防護柵についても、耐久性等を含め経過観察を続けていきます。</p>						1 現状のまま継続